

計画策定以降の主な社会情勢の変化

(1) 奈良県経済の進展

- ・ H30.7の就業地別有効求人倍率は1.68倍(近畿2位)
- ・ 県税収額全体は、H30年度予算で過去10年間で最大 [1,224億円(前年度+14億円)]

■ 企業立地の進展

(工業ゾーン創出、新規工業立地の拡大)
H29の県内企業立地件数は34件 (全国11位)

■ 市町村とのまちづくり協定の締結

市町村数：26市町村54地区 (全体39市町村の2/3)
※平成30年末時点

■ インバウンドの拡大

H28の県内観光客数は4,407万人、
直近5年で1.3倍に増加

■ 東京リニア中央新幹線の開業

H39年 リニア中央新幹線 (東京-名古屋) 開業

(2) 大規模自然災害の増大

直近の自然災害による、重要インフラの機能支障など、
経済や生活に多大な影響が発生

- 〔 H28 熊本地震、H29 台風21号被害、
H30 大阪府北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震 〕
- 重要インフラの緊急点検を実施

(3) 加速する社会資本の老朽化

高度成長期以降に集中的に整備した社会資本の老朽化の
進行により、メンテナンス費用が急増

- 〔 建設後50年以上の道路橋の割合 (県・市町村分)
H27年度 約26% → H37年度 約48% → H47年度 約68% 〕

奈良県のこれまでの主な取り組み

■ 骨格幹線道路ネットワークの形成 (5年間)

県事業箇所の整備率は約43%で、概ね計画どおり推進
(辻堂バイパス等10路線で約10kmを供用)

■ 目的志向の道路整備の推進

1) 企業立地支援

- ・ 工業団地とインターチェンジを結ぶ天理王寺線
(長楽工区) などの整備

2) 生活利便の向上に資する道路整備

- ・ 病院へのアクセス道路として、(都)石城線、
枚方大和郡山線 (柳町工区) を整備

3) 観光振興に資する道路整備

- ・ ぐるっとバスのルート見直し、パーク&ライドの社会
実験を実施、(仮称)登大路バスターミナル整備

4) 安全・安心を支える道路整備

- ・ 国道168号 (新天辻工区)、国道169号
(伯母峯峠道路、御所高取バイパス) の新規事業化
- ・ 橋梁、トンネル、大型構造物の法定点検 (H30年度完了)

基本計画改定のポイント

- 現行計画の「選択と集中」を堅持し、骨格幹線道路ネットワークの形成を推進
※経済の進展に対応して、企業立地を促進する
京奈和自動車道の整備推進
- 目的志向に「まちづくりに資する道路整備」を追加
- 「安全・安心を支える道路整備」を新たに柱立て

《 現行計画 》

1. 骨格幹線道路ネットワークの形成
 2. 目的志向の道路整備の推進
 - ・ 企業立地
 - ・ 生活利便
 - ・ 観光振興
 - ・ 安全・安心
- ※ 骨格幹線道路の事業展開箇所表

《 改定計画(案) 》

1. 骨格幹線道路ネットワークの形成
 2. 奈良県経済の進展に対応した
目的志向の道路整備の推進
 - ・ 企業立地
 - ・ まちづくり
 - ・ 観光振興
 3. 安全・安心を支える道路整備
- ※ 道路整備プログラム

※ 計画期間内に事業展開を図る主な整備箇所を明示
するとともに整備目標を設定